

2025年12月18日

依命留学報告書

学科名 造園科学科

職名 准教授

氏名 金澤弓子

- 留学先 オスナブリュック応用科学大学（ドイツ連邦共和国）
- 研究課題 持続可能な都市植生のための造園植物の生育と管理に関する研究
- 留学期間 2024年9月1日～2025年8月31日
- 留学期間中の活動報告

本留学は、持続可能な都市植生のあり方を検討することを目的として、ドイツ北西部を中心に、都市緑地・植物園・公園等における造園植物、とりわけ常緑広葉樹の生育および利用実態を把握するための現地調査を主軸として実施した。当初は圃場を用いた生育実験も視野に入れていたが、受入先が調査・植栽学を専門とする研究室であったこと、また現地で得られる情報量や調査対象の広がりを踏まえ、実態調査に研究資源を集中させる方針へと計画を修正した。

その結果、31か所の調査地において786個体を対象とした調査を実施し、45属130種、438の変種・雑種・品種を確認した。調査では、樹種構成や植栽配置に加え、樹高や樹冠幅などのサイズ計測を基本とし、一部については樹勢に関する簡易的な評価や管理担当者への聞き取りも行った。これらの成果は、特定の種や品種の評価にとどまらず、地域ごとの植栽傾向や、複数施設に共通する樹種構成を整理するための基礎資料として重要である。特に *Ilex*, *Magnolia*, *Quercus*などの属は複数地域で継続的に確認されており、都市環境下における利用実態を把握する上で重要な対象であると考えられた。

また、各施設における植栽管理の考え方や導入経緯について、現地担当者から直接情報を得る機会にも恵まれた。調査地の中には樹木リストが長期間更新されていない施設もあり、本調査が現状の植栽構成を整理・再確認する契機となった例も見られた。こうした点から、本調査は研究目的に加え、植栽資料の整備や管理実態の把握という側面においても一定の意義を持つものと考えられる。

研究活動に加えて、国際ワークショップや教育プログラム、研究者交流への参加を通じて、造園分野における教育および国際連携の実践的な取り組みに触れる機会を得た。今後は、本留学で得られた調査データを基盤として、日本国内の都市部における現地調査を進め、地域間比較を行うとともに、得られた知見を研究および教育活動へと還元していきたい。

本留学の実施にあたり、受入先であるオスナブリュック応用科学大学の Jürgen Bouillon 教授をはじめとした教職員ならびに関係各位、また本学関係者の皆様には、多大なるご支援を賜りました。ご支援・ご協力をいただきましたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。